

令和3年度第2回小金井市児童館運営審議会 会議録

会 議 名	令和3年度第2回小金井市児童館運営審議会		
事務局(担当課)	児童青少年課		
開 催 日 時	令和3年11月26日(金) 午前10時～11時50分		
開 催 場 所	上之原会館 集会室 AB		
出席者	委 員	倉持委員、高橋委員、山田委員、鈴木委員、大久保委員、木本委員、三浦委員	
	その他	(欠席：檀原委員、山中委員、小林委員)	
	事務局	大澤子ども家庭部長、鈴木課長、前田係長、森主査、山田主任、鈴木主任、林主任、東児童館(仲村マネージャー)	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2名
会 議 次 第	<p>議題</p> <p>1 開会 (本町児童館見学)</p> <p>2 議題 (1) 児童館事業について (四館合同事業の報告他) (2) その他</p> <p>3 閉会</p>		
資料・配布物	資料4	令和3年度四館合同事業について	
	資料5	小金井市子どもの居場所づくりの推進に関する指針	
	資料6	小金井市の児童館の遍歴	

鈴木課長	<p>皆さん、おはようございます。本日は、お忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。児童青少年課長、鈴木と申します。本日はよろしく願いいたします。</p> <p>事務局から連絡事項がございます。着座にて失礼いたします。本日は、小林委員から欠席の御連絡を賜っておりますので、お知らせさせていただきます。なお、現時点で山中委員と檀原委員がいらっしゃっておりませんが、御連絡いただけていないので、ちょっと遅れてくるかなと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、連絡事項を2点ほどお伝えさせていただきます。</p> <p>1点目は会議録の関係になります。本会議の会議録作成のため録音させていただきます。発言される方は、発言の前にお名前をおっしゃっていただけてから発言いただくよう御協力をお願いいたします。</p> <p>2点目は本日の進め方についてでございます。開会后、改めて本日の流れについて御説明させていただきますが、児童館運営審議会では児童館の状況についても確認いただくため、児童館を会場として開催させていただく会議を設けさせていただきます。2年間で市内4館を全て見ていただくようにと考えております。今期につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行動向も注視しながらとなっております。今回は児童館の1室ではなく、児童館隣接の集会所を会場とさせていただきます。前期から引き続きの方につきましては連続となり申し訳ございませんが、本日は本町児童館を見学していただく予定でございます。今後なるべく全館の見学ができるように、組み込めるようにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、会長、開会をお願いいたします。</p>
倉持会長	<p>皆さん、おはようございます。それでは、令和3年度第2回小金井市児童館運営審議会を始めていきたいと思っております。9月ぶりの会議でしょうか。本日は見学もあるということで、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>では、まず事務局から資料の確認と今日の流れについて説明をお願いいたします。</p>

前田係長

事務局の前田です。まずは資料の確認です。本日机前にお配りしてありますのは、次第のほか、資料4合同事業の報告についてです。事前に送付させていただきましたのが、資料5の小金井市子どもの居場所づくりの推進に関する指針と、資料6の小金井市児童館の遍歴となっております。資料、お手元に全ておそろいで大丈夫ですか。不足があれば予備がございますので。大丈夫そうですかね。

次に、前回、御案内させていただいておりました本会議の進め方について変更点がございますので、先にお知らせさせていただきます。

初めに、小委員会の立ち上げについてです。当初、本日のタイミングでは、小金井市の長期総合基本計画、10年間の最上位計画が策定されている予定だったんですけれども、まだ策定されておられません。また今回、第2回の開催通知でお声がけさせていただいた小委員会への参加希望について、希望者数が若干名だったこともありまして、事務局で検討をさせていただいた結果、本日は立ち上げず、今後の在り方について検討する場合は、皆さんと一緒に考えるのを原則とさせていただいて、今後、コロナの関係が、今、感染者数がかなり減少して落ち着いているところなんですけど、それがまた急拡大とかした場合には、そういった小委員会とか、もしくはオンラインを使った会議という形で、人数をちょっと減らして検証ができるように、そのときに考えたいと思っております。

本会議の原則というところで、具体的なスケジュールの訂正案を今、長期総合計画の策定が見えていないのでお示しできなくて申し訳ないんですけれども、今年度中は最低あと1回、例年であれば2月に来年度の事業についても御意見をいただきたいという旨で最低1回。来年度の開催について、本来予定としては3回ということでアナウンスをしていたんですけれども、こちらの回数を増やして検討していきたいと考えております。

このスケジュールと進め方の変更に伴いまして、本日の議論について先に整理をさせていただきたいと思っております。今日の議論は主に2つあります。1つ目は、この後、本町児童館の見学をしていただいて、その後、今年度行っております四館合同事業の報告を先にさせていただきます。それに基づいて、現状の児童館についての御意見出し、あと質疑も構わないんですけれども、そういったところをお願いしたい。

2点目は、本来、小委員会を立ち上げてからとは思っていたんです

倉持会長	<p>けれども、在り方検討の事前レクのつもりで御用意したものになりますが、資料5、資料6、居場所指針と児童館開設から現在までの遍歴についてのレクチャーの後、50年以上の児童館全体としての取組とか、そこから見えてくる今後に生かすべき課題や視点などについて御意見を伺いたいと思っております。今日の議論はそういった形で、今と将来に向けて歴史を振り返りながらの2点になります。</p> <p>説明は以上です。</p> <p>ありがとうございます。今、事務局から説明がありましたけれども、何か御質問ありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、まだ2人いらっしゃってないんですけども、早速、児童館の見学に行きたいと思えます。荷物は置いていっていいということで、貴重品だけお持ちいただいて移動いただければと思います。よろしく願います。</p>
前田係長	<p>担当が案内させていただきます。外を通るので、もしあれだったらコートとかを着て御準備ください。</p>
鈴木主任	<p>本町児童館の鈴木と申します。御用意が整いましたら御案内いたします。</p>
倉持会長	<p style="text-align: center;">(施設見学)</p> <p>それでは、皆様、お疲れさまでした。では、議事に入っていきたいと思うんですけども、今の見学の感想などもあると思うんですけども、先に議事(1)のお話を伺った上で、感想も含めて御意見をいただければと思います。</p>
森主査	<p>では、議事(1)児童館事業についてということで、事務局から説明をお願いします。</p>
鈴木主任	<p>緑児童館の森です。よろしく願います。四館合同事業計画の報告については、事業の責任者というか、担当者である本町児童館の鈴木から説明をさせていただきますので、よろしく願います。</p> <p>本町児童館の鈴木です。お手元の資料4を御覧ください。今年度行った合同行事についてまとめたものとなります。昨年度、オンラインのみのイベントを実施しましたが、今年度はオンラインと、実際に児童館に来て4館を巡るというウォークラリー形式で企画及び実施しました。</p> <p>新型コロナウイルスが拡大する前、じどうかんフェスティバルというイベントを、一堂に会して行っていましたが、子どもたちを大人数</p>

集めることが感染対策の上でも難しくなってきたため、昨年度からオンラインを利用したものを代替事業として行っております。

基本的には、小金井市子どもの権利に関する条例の条文にあります、子どもの意見表明を基礎にイベントを実施しております。子どもたちと職員が主体的に関われるように、イベント内容からスタッフとして子どもも一緒につくり上げていくという形で実施しております。今年度は夏休みにウォークラリーという形で、オンライン問題を自宅で解いてきて、その答えを持って各児童館を巡って、スタンプを4館分、4つもらってクリアするというイベントを開始しました。

子ども会議といって、児童館に来る子どもをスタッフにして問題をつくり上げ、その後、最終決戦という形で、9月にキク・ゲイツという職員が扮した電腦世界の王というキャラクターを参加者である子どもたちが倒すというイベントを行いました。その電腦世界の王の手下も子どもたちにやってもらおうという形で進めてまいりました。ウォークラリー自体は8月いっぱい行いましたが、参加してくれた人数自体は30人と多くはありませんでした。それは、夏の暑い時期に児童館を巡るという過酷な条件と、低学年は保護者の協力も必要となっていたので、この人数となったかと思います。

その中で、ゴールした参加者は23人います。最終決戦にキク・ゲイツを退治しに来た参加者は21人いました。当初、20人ずつを小金井市総合体育館の小体育室に集めて、3セット行うイベントで予定をしておりましたが、結果として参加者は21人だったので、10人程度を2セットに分けて行いました。オンラインを活用したり、各自で児童館を訪れてイベントに参加するという点は、密を防ぐ方法として効果的でした。

最終決戦は、写真を資料4の3ページ目に用意しました。上の2枚は、参加者が問題を解いていて、子どもスタッフが補助をしている形になります。問題が解けた子どもの写真が3枚目になります。バランスボールを投げているシーンですが、このボールを左にいる職員扮するキク・ゲイツという魔王に投げて当てて、倒すということで最終決戦を行いました。ウォークラリーのスタンプカードは、2枚目下部に掲載しております。

このイベントとは別に夏の宿泊行事を例年企画しておりましたが、宿泊を伴う事業は飲食も伴いますので、なかなか開催が難しいという

	<p>ことで、今年度は8月の夏休みに、武蔵野公園くじら山で肝試しをやる予定で進めておりました。肝試しは、東京都の緊急事態宣言が8月中も発令中でしたので、一旦中止としましたが、同年10月に同じ規模のイベントで肝試しをやり直すという形で行いました。</p> <p>肝試しは4部制で行いました。小学生を参加者として集め、中・高校生世代、さらに大人のボランティアと一緒に職員がお化けに扮して驚かし、くじら山周辺のルートを練り歩かせました。10人ずつの編成で4部行ったので、40人の募集をかけましたが、100名以上の申込みがありましたので、抽選としました。100名以上の募集に対して40人というところかなり狭まってしまったように感じますが、それでも感染対策等を徹底してやったので、この規模が妥当でした。</p> <p>抽選の結果、外れてしまった子どもは参加はできませんでしたが、保護者から、さらにこういったイベントを児童館で企画してくれると嬉しいという声もありましたので、今後の方向性として、令和4年の3月に同規模のイベントを企画して実施しようと考えています。</p> <p>報告としては以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。それでは、今御説明いただいた四館合同事業について、あるいは、先ほど本町児童館の見学をしていただいて、実際に御覧いただいたわけですが、それなども踏まえて、現在の児童館事業についての御意見や御質問などありましたらいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。いかがでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
木本委員	<p>木本です。先ほどはありがとうございました。まず、本町児童館さんに見学、2回目させていただいたんですけれども、前回見学させていただいたときよりも、ますます物の配置とかすごいきりきりしていて、子どもたちの遊ぶ場所だったり過ごす場所を広く確保しようとしてくださっているのがすごく伝わりました。</p> <p>あと、入り口付近に貼ってあった何回来たかという表彰のところで、上位の子たちが100回以上来ているのを見て、やっぱりとても小学生とかの居場所になっているんだなということを感じて、本町さんだけじゃなくて、ほかの3館もきっとそうやって子どもたちが過ごせる場になっているんだろうなということを想像して、やはり児童館は大事だなと思いました。</p>

	<p>四館合同事業についての質問なんですけれども、こちらも子どもに主体的な関わりだったりを、体験や関わりをというので、すごくやってくださったんだなというのを感じたんですが、1番のウォークラリーのところで、思ったよりも参加者が少なかったというお話はあったんですが、ただ、子ども会議として参加した子が201人ですか、すごく多かったなというのは感じていて、その子たちがゲームをつくり上げていったりとか、やっていった後の気持ちというか、充実感というか、そういう感じなのはあったのかなというのを、それぞれの館の方に伺いたいなと思います。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございました。では、今の御質問に対していかがでしょうか。各館の館長さんから少し受け止めを教えていただければと思います。</p>
鈴木主任	<p>担当者を代表して、本町児童館の鈴木が申し上げます。子ども会議の延べ人数はの内訳は、6月から9月まで会議を全6回行って、4館まとめて平均すると10人前後が1回の参加者です。子ども会議に参加してくれた子どもたちに、最終決戦が終わったときに感想等を伺いました。イベントに参加したことで充実感があり、コロナでどこにも行けなかったのが、今回のイベントに参加することができてよかった。テレビで脱出ゲームや問題を解く番組が流行っていることもあり、自分たちがテレビのスタッフのような気持ちになれたとか、そのような意見をいただきました。</p> <p>それから、イベントが終わった後、各館で反省会という形で子ども会議の最終回を行いまして、その場でもまた参加したい、次回は違う形のイベントを考えたい等の肯定的な意見をたくさんもらいました。それぞれスタッフとして参加した子どもも、実際に当日討伐しに来てくれた子どもも、とびきりの笑顔でしたので、成果はあったと感じます。</p> <p>以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p>
木本委員	<p>ありがとうございます。</p>
倉持会長	<p>代表して答えていただきました。ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。感想だけでいいので、ぜひお一言ずつでも言っていただけるといいなと思うんですけれども。</p> <p>大久保さん。</p>

大久保委員	<p>大久保です。先ほど、児童館での説明を聞かせていただいて、常に来ている子どもたちに職員さんが声をかけている様子を聞き、上の子に下の子、ちょっと面倒を見てあげてみたいいな形で声をかけているのが、こういうふうに主体的にスタッフみたいな形で関わっていく基になっているのかなと思って、とてもいいことだと思って感心しました。ありがとうございました。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。ほかにはいかがでしょう。</p> <p>お願いします。</p>
鈴木委員	<p>審議委員、鈴木です。先ほどは、見学、ありがとうございました。たまたま幼児グループの活動をやっている日だったので、お子さんもかわいらしくて、懐かしく拝見いたしました。活気があって、すごくよかったなという感じを受けました。幼児グループがなかなか人数が集まらない、活動が縮小しつつあるという傾向を前回の回でも、議会でもそういう話を聞いていたんですけれども、いざ目の当たりにすると、やはりこういう活動を何らかの形でもっと継続したり活発にしていけるようにしたらいいのかなという印象を受けました。</p> <p>あと、四館合同事業についてなんですけれども、ウォークラリー、やはりこちらの参加者数が下回った要因について、資料にも書いてありますけれども、私も子どもを参加させようかなと思ったりはしたんですが、1人で歩ける距離ではないなという感じがあったり、本町児童館なんかにも、私、三小学区なので子どもが行ったことがないとなると、土曜日に親がついていかなきゃいけないのかなと、全部回れるかなというところで、ちょっと難しいかなという印象を受けて、なかなか参加に至らなかったという点があったので、個人的な感想ではありますが、こちらにも挙げられているので問題点は同感いたしました。</p> <p>簡単ですが以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。確かに物理的な距離がちょっとあるのが、低学年にはちょっと難しいかなというところだけ。企画は面白いということだったですね。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょう。</p>
山田委員	<p>山田委員、お願いします。</p> <p>山田です。今の意見とちょっとかぶってしまうんですけれども、四館合同事業についてのウォークラリーなんですけど、回答を持って市内児童館4館を回るというのが、やはりちょっとハードルが高いかなと</p>

思いました。特に北大通り沿い、こちらから行けば北大通り沿いを走っていくとか、自分のうちに一番近い児童館に行くだけだったらいいんですけど、4館全部となると、こちらから緑児童館のほうに行くのもかなり遠くて、特に小学校低学年などは親の力を借りないと自力ではちょっと行けないんじゃないかなとか、あと、高学年のお子さんたちももし自転車で飛び回るとしたら、道路の関係とかを考えると危なくはないのかなとか、そういうことを考えると、参加人数が少ないというのはそういったのがちょっとハードルが高かったのではないかなと思いました。

あと、本町児童館なんですけど、久しぶりに今日拝見させていただいたときに、前回よりも、コロナ禍だったのか、掃除もよりきれいに行き届いて、きれいにはなっていたんですが、やはり狭いので、今は廊下にもいろいろな写真だとかテーブルが置いてあって寝転がれないようになっていましたが、今まではトイレの前の廊下にみんな、ごろごろと寝そべって遊んでいる姿とかも見たことがあって、とても狭いんですね。その中で、なおかつ2階にも学童がいて、行事のときなどは、西部地区でも子ども縁日でお世話になってはいますが、上の原公園を使わせていただいているので、一見広いように錯覚を起こすんですが、やはり本町児童館管轄の中で考えると、本当に狭いので、このままだと大変じゃないのかなと思ったりもしました。

あと、個人的にファミリーサポートで協力員をやっているんですが、子ども家庭支援センターのゆりかご広場が月曜日がお休みなんですね。なので、お子さんをお預かりしたときに、よくゆりかご広場で保護者の方と待ち合わせをして、そこで遊んで、保護者の方が迎えに来るまで待っているというお預かりをしたりもするんですが、月曜日に依頼があると、どこで待ち合わせしようと。御自宅を使えない場合、例えば、図書館の絵本コーナーで待ち合わせをして、お預かりして、保護者が迎えに来るまでそこで待っているとかがあったことはあるんですが、そういうときに、児童館の、先ほど拝見した遊び場をちょっと利用させていただいたりとかができればいいなと思いました。

以上です。

倉持会長

ありがとうございます。今後の連携みたいところで言っても、そういう方策というのは一つあるかもしれませんね。ありがとうございます。

三浦委員	<p>では、お願いします。</p> <p>今後の四館合同行事についてなんですけれども、僕も昔、4月1日に児童館の新メンバーになるときに、全てのカードを最速で作ろうぜみたいな企画を友達とやって回ったことがあるんですけども、朝の9時からやって、少しずつ児童館に滞在していたとはいえ、それでも午後にはなっていたので、やはり回ること自体には時間がかかるなと思うんですが、自転車で行って、高校生と中学生だったにもかかわらず、そのぐらいかかったので、やはり距離があるから苦しい企画なのかなというのと、あと、これの開始日に、たしか貫井南児童館にいたんですけども、子どもに、これやらないの？と聞いたら、ほかの児童館の場所が分かんないと言っていたので、そもそも来ている子たちはあんまり知らないんじゃないかな。単体の児童館のイベントならやるかもしれないけど、ほかの児童館のこととなると、ちょっとわからないことになるんじゃないでしょうか。</p> <p>以上です。</p>
倉持会長	<p>なるほど。ありがとうございます。生の声を聞かせていただきました。ありがとうございます。三浦委員、ありがとうございました。</p> <p>じゃ、高橋委員、お願いします。</p>
高橋職務代理	<p>高橋です。本町児童館を回らせていただいて、一番最初に2歳児の遊んでいる姿を見たんですが、13人ぐらいのお母さんがいたから子どもも13人だろうと思いますけど、世話役の人、当番の人が7人かな、参加者が6人。2歳児ぐらいだと、ほぼ同数の参加者と同数のお世話係というのが通常なんですかね。こっちを見て聞きたいところなんですけどね。(笑)</p>
倉持会長 高橋職務代理	<p>そうですね。後で答えてもらいましょう。</p> <p>それをどうかなと。これ、単なる確認だけなんですけど。行政判断になるとは思いますが、お聞きしたいのは、コロナになって、飲食をしないというのが、いろんな催物、行事等も含めて、それが基本になっていると思いますが、今、東京都なんかも感染者が非常に少なくなっている状況で、どのくらいの状況になったら、例えば、調理だとかそういうことが始められるのかと。物を作ったり食べたりというのは非常に大きな楽しみにつながっていくと思うので、そういったところがある程度お示しいただけるものであれば、お聞きしたいなとは思っています。</p>

	<p>あと、4館の事業の中でウォークラリーで、4館全部回るといって十数キロになるでしょうから、小さい子どもたちにとっては非常に大変な話ですよ。自転車の参加も認められているということですよ。そうしたときに、時間の制限等々のこともあるでしょうし、それ以前に、開催する時期、夏休みの関係もあるでしょうから、その辺に設定されているんだろうと思いますけど、今回、非常に人数も少なくなっているところで、遡って例年の資料を見ていないでお聞きするのも非常に恐縮なところですけども、従来はどんな具合だったのかなというのを参考までにお聞きできればと思います。</p>
倉持会長	<p>以上です。</p>
大久保委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>どうぞ。</p>
	<p>何回もすみません。大久保です。この合同行事についてですが、いろいろ御心配な御意見が出たと思いますけれども、私自身は、期間をすごく取っておりますし、1日で一度に回る必要もないので、今回は参加が少なかったけれども、自分の知らない地域に行く一つのきっかけにはなったのかなと思います。1回の企画だとやはり周知できないので今回の結果は少し残念ですが、もし恒例の企画になれば、子どもたちが市内の他の地域を知るきっかけにもなるかもしれないので、意見を取り入れつつ、続けても良い行事だと思いました。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。じゃ、今、高橋委員から幾つか質問が出ていたので御回答いただければと思いますが、よろしくお願いします。</p>
森主査	<p>緑児童館、森です。まず、幼児グループ……。</p>
倉持会長	<p>そうです。それは、多分、さっきの本町の見学に関わっているので、スタッフと参加者同数のあたりという部分と、あと、調理とか飲食に関してはいつぐらいから解禁されるんだろうかというお話と、あとは、これまでの四館合同事業を参考までという。</p>
鈴木主任	<p>本町児童館の鈴木です。本町児童館の幼児グループに関しての発言になりますが、スタッフと参加者が同数というよりも、基本的には利用者全員が参加者です。その中で、班、つまり役割当番を母親で分けているという形です。コロナ禍で18人定員で募集をかけて、6人のグループを3つを想定していたんですが、現在14名の参加者数ですので、7人のグループを2つの班に分けて、1つの班がスタッフ、イベントを考える母親当番のような形で、もう1つの班が考えられたイ</p>

倉持会長
森主査

ベントに参加するグループ、その2つの班が3週間ごとに担当するターンが回っていくという進め方です。

ありがとうございます。お願いします。

緑児童館の森ですが、飲食の再開というか、コロナ禍での子どもたちの児童館の中の生活のことになりますが、学校では基本的に給食以外ではマスクを外していないと思いますし、給食の時間でさえ、厳粛な中で私語を慎み、向かい合わせにならない形をとるなどしています。児童館でもマスクは外さないで活動することが基本となっているので、飲食はマスクを外すことになりすし、調理や食材を用いた事業は当面は難しいと考えます。

令和2年度6月からの開館当初はおやつの持込みは自分が食べるだけという約束で認めていましたが、やはりマスクを外す行為につながり、子どもたち同士向かい合ったり、ついつい人にあげてしまったりもしていたようなので、12月より持ち込み自体を禁止とし、現在もこれを継続させています。今後については、コロナ禍がどうなっていくかの予想がつかないので何とも言えませんが、様々なことが緩和されてきたとしても、飲食については恐らく一番最後になると思います。

現在の緩和については、定員を設けている事業でその定員を増やすなどしています。緊急事態宣言が解除されたのは10月からですが、児童館は2か月先ずつ計画をしていくので、徐々に緩和と言いましたが、実質は1月の事業の計画に反映させているところです。またこれまでに出来てこなかった事業、例えば、遠足とか野外事業ですね。野外に関しては、館内で活動するよりも状況によっては多くの人を集められるのではないかとということもありまして、先ほど鈴木から報告のあった10月に行った肝試しも、野外でやるとどういうことになるかというのも一つの実験的な要素もありました。なので、今後、野外に関する事業については増やしていきたいという方向があります。

毎月の移動児童館事業は幸いながら行うことができているんですけども、これまでは都立武蔵野公園で行っていることで、市内の子どもや親子に限らず、市外からの来園者についても受け入れていました。ですが、現在は申込制に変えたことで市民だけの参加になり、小学生については付き添いの保護者は枠外で待ってもらい、幼児については付き添いは1名まで、とさせていただいています。参加ということについては今後変えていけるかもしれませんが、話は元に戻ります

倉持会長	<p>が、飲食や調理を伴う内容は野外であってもまだ先なのかと思います。</p> <p>ありがとうございます。コロナ前の四館合同事業は、年頭の報告書とか見ていただくと分かりますかね。前回配付されましたかね。工夫された事業。キク・ゲイツは去年に引き続きですよ。</p>
鈴木主任	<p>本町児童館の鈴木です。昨年度はオンラインのみで問題を解いて、最寄りの児童館に景品を取りに行くという形で行いました。参加者は57人でした。</p>
倉持会長 鈴木主任	<p>人気だったんですよ。</p> <p>それ以前のじどうかんフェスティバルでは、数百人規模で会場に集まっていたので、感染対策を講じつつ実施できるよう、様々な企画を考えてまいります。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。やっぱり対面活動ができるようになってくると、実際の活動の合同事業のウォークラリーもそうですし、くじら山の活動もそうなんですけれども、参加したいという意欲が高まるというか、体験とか遊びの機会が減ってきているので、こういうのはすごく楽しみにされるんだなと思う一方で、去年、手応えを感じたオンラインでのキク・ゲイツ、ウォークラリー、オンライン上の謎解きというのを今年、実際の活動と組み合わせたというのは、また新しい取組だったなと思って、さっき大久保委員がおっしゃったように、実際参加者は、ハードルを大分上げたので、その分コアなメンバーしか残らなかったのかもしれないんですけども、意図としてはすごく意味がある意図だったと思いますし、実際の対面での活動と、また今後何が起こるか分からないという意味では、こういう実験的なことができたのは成果があったなと感じました。どちらも非常につくり込んだプログラムというか、中身になっていて、なおかつ、つくり込みの過程に子どもたちが関わっているところなんかが、継続的な参加とか楽しみを促している中身になっているなと思いました。ありがとうございました。</p> <p>それでは、次の議事に入ってよろしいでしょうか。では、続いて、資料5、6についての御説明をお願いします。</p>
前田係長	<p>事務局です。資料5からまず御説明させていただきます。こちらは、令和2年度に児童館運営審議会と同じように、子ども・子育て会議という附属機関があるんですが、こちらで子どもの居場所部会というのが設置され、地域における居場所の推進のための、子どもの居場所の</p>

在り方について検討を行い、市に対して報告書が提出されておりました。その報告書を受けて、市の指針として9月に公表しているものとなっております。詳細は資料のとおりなのですが、簡単に御説明しますと、本市の目指す方向としては、1つの居場所が全部の機能を持っていなくても、どこかの居場所で全ての子どものニーズがそれぞれで満たせるように、多様なものが地域に点在しているのいいのではないかと、この特色をつなげるコーディネート的な中間支援拠点があるといいというような内容になっています。

資料6がちょっと見づらいと思うので、そちらは詳細に説明させていただければと思います。児童館の遍歴についてまとめさせていただいております。表の見方としては、市内で初めて児童館が設置された年から昨年度、令和2年度までの主な取組年表に対して、それを初期、中期、拡充期、成熟期、コロナ期と区分、こう呼ばれているわけではなく、見やすいように区分を分け、その区分ごとに特徴について概要を掲載しています。その右側には、1館のひと月当たりの平均利用者数を掲載しています。

例えば、開設1年目の昭和42年は、本町児童館を5月に開設したというところで、1館しかなかったので、年間利用者数を5月からカウントの11か月で割った数が書いてあります。裏のページの令和2年度になると、令和2年度は4月、5月をコロナの関係で休館していましたので、今は4館ございまして、10か月掛ける4館の40か月で、4児童館の総利用者数を割った数が載っているという形になっています。

その右側なのですが、18歳までの年少人口についてですが、今すぐに掲載できるのが平成15年度分からとなっていて、もし必要があれば、その後、追加資料として今後の児童館運営審議会の中でお示しできればとは思いますが、5年ごとの4月1日現在の人口になっています。

最後、一番右側、こちら、学童児童数は年代ごとに出すのがすごく複雑だったので、中期とか初期とかの区分年代の合計登録者数を区分に、例えば、中期だと平成元年から平成12年までなので12年で割って、その年にあった学童保育所数で割り返して出しています。ただし、初期区分のところだけは、20年あった関係もあり、学童が増えたりとかということもあり、そういった積算が難しかったことと、あ

まりにも年度によって変動があったところから、ほんちょう学童の利用児童数の最少と最大、昭和49年から昭和62年の間の最少と最大が載っている形になっております。ここだけ積算がほかの区分と違っておりますので、御承知おきください。

真ん中の区分ごとの特徴についてそれぞれ見ていきますと、初期の約10年につきましては、まさに手探りの試行錯誤期であったと言えます。記載のとおり、当初は土日開館もしておりました。ただ、日曜の利用者数が少なかったことから、現在の開館曜日に変更を行ったり、事業としては、グループ活動も開始はしたものの、今のように通年での登録制という形ではなくて、同じ事業名を毎月行うような形で、常連を増やすことを目的としたりしておりました。

また、児童館開設に対する市民の関心が高く、多くの寄贈や寄附などの財政支援ですとか、事業への地域住民のボランティア参加など人的支援も豊富で、最たるものとしては、わんぱく号事業があります。こちらは、寄附金を活用して自動車を購入し、まだ児童館が建設されてなくて、当時、青少年センターというものがあったんですが、それもなかった地域として、一小、南小学区の子どものために、現在と同じ武蔵野公園のくじら山での開催を決定して、地域団体のたけのこ会という市民団体の協働として事業をスタートさせたのが昭和49年2月という形です。

このような時代背景の中、当時は保育園よりも幼稚園に通わせる家庭も多かったことから、児童館では児童館に遊びに来る子どもはもとより、幼児とともに児童館を利用する母親をメインターゲットとして、児童館を拠点に地域で子育てに携わる市民ボランティアの育成に力を入れるため、現在も取り入れているように、幼児グループという形で、保護者が主体的に行事を計画するようなスタイルを確立させていきます。

裏面の平成の中期、こちらは、児童館の現在の年間事業の原形が出来上がるとともに、市民にも児童館というものが、ああ、あるんだなというのが定着してきた時代です。児童館は、ゼロ歳から18歳までのそれぞれの年代の子どもに単発的に関わることもあるんですけど、この頃から、乳幼児のための子育て広場事業を段階的に始めて、広場から幼児グループ、幼児グループから小学生グループ、もしくは行事への参加をして、中高生になってもボランティアなどで活躍してくれ

るような、学校よりも1人の子どもに対して長く関わることができることが児童館の特色だということで重要な視点の一つとなっていきました。

また、子どもを取り巻く環境の変化で大きかった、いわゆる学校週休2日制の導入期に当たるのが、この平成の初期になっていきます。週休2日制に合わせたカリキュラムに学校の授業がなくなっていった、その時代に就学期を迎えた年代は、いわゆるゆとり教育、ゆとり世代と言われて、その後、授業数が増えていきます。6時間授業が低学年でも行われるようになり、放課後と言われる時間がどんどん、どんどん短くなっていきます。こうした社会変化の中、児童館ではニーズ拡大に向けた模索期、平成13年から24年で区切っていますが、拡充期というところを迎えていきます。現在も試行を続けておりますが、条例上の17時で児童館閉館と書いてあるんですけど、これを30分から1時間延長してみたり、中高生のための20時までの夜間開館事業を実施したりという形を取っていきます。この中で、直営では試し切れない試行内容を取り入れることで市民サービス向上につながるのではないかということから、東児童館が初めて委託されることになりました。平成18年です。

委託による効果としては、御存じのとおり、直営が今17時30分まで開館延長を行っているのに対して、東児童館では18時まで行っていたり、現在は貫井南児童館も行っていますが、夜間開館事業を月1回とかではなく週1回実施したり、あとは常設の子育て広場、月曜日から土曜日まで毎日行うよという常設の子育て広場を開設したりと一定の効果を上げています。

次の成熟期、この頃から女性の社会進出が進んで、保育ニーズが、この後急増していきます。この辺りになると記憶がある方が多いかなと思いますが、一番端の学童の入所者数で見ても、例えば昭和40年代は1所平均30人だったところが、単純に3倍以上、直近では4倍以上という形になっています。市の施策として現在、保育園の待機児童が問題化して、待機児童解消に向けて市が重点的に対応した結果、保育園の入所者数が平成27年度は2,007人が定員数だったんですけど、今年度は3,688人と、6年間で1.8倍ぐらいに増やしています。6年前の保育園の利用がここ数年の学童の年代に上がってきて、今度は学童を利用するというようなことから見ても、今後、学童

の利用者数もまだまだ増加する傾向が読み取れるかと思います。

最後のコロナ期に関してなんですが、児童館という施設の役割を再認識するような年でもありました。この辺りについては、前回配付いたしました、会長からも御案内がありました令和2年度のこの1年の歩みで確認いただいていると思いますので省略をさせていただきたいと思います。今回は、現状分析に必要な資料をあまり提示できていない現状となりますが、今後、児童館で取り組んだほうがいい視点とか、こう見てみるとこういうふうに読み取れるよねとか、視点とか在り方に対しても何か御意見があったらお伺いできればと思っております。

説明は以上です。

倉持会長

ありがとうございました。では、資料5の居場所づくりの指針の資料と、今の資料6、本市における児童館の設立から現在までの少し大きく見た変化のプロセス、あるいは子どもの実態の一部でしょうけれども、それについての御説明をいただきました。本日冒頭でもありましたけれども、小委員会設置は見送っているんですけども、児童館の在り方そのものについても検討するという大きな課題自体がなくなっているわけではないので、それに向けて、本日少し言っていた情報提供を踏まえて、皆さんの小金井市における児童館のこれまで、あるいはこれからというところについての所感なり御意見なり視点なり、あるいは、今後こういうところも資料として見てみたいとか、こういうことを議論してみたいなということがありましたら御発言いただければなと思います。もちろん資料そのものについての質問でも構いません。ということでいかがでしょうか。

山田委員、お願いします。

山田委員

山田です。先ほど、本町児童館を見学したときにお聞きしましたけれども、利用者が本町小の子が8割ということでした。私が住んでいる地域は四小地域で、貫井北町五丁目なんですね。四小は線路沿いから坂下の貫井南児童館利用者の子がほとんどで、線路から北側の貫井北町五丁目付近の子たちは行くところがないんです。公園もないですし、特にコロナ禍で学芸大の中も通り抜けができなくなってしまって、児童館はここまで来ないと遊び場がないわけです。以前は、保健センター、今の子ども家庭支援センターになる前の保健センターには、大きいジャングルジムとか、いろんな遊具がある公園があったのが、今はもう砂場1個ぐらいしかない小さな公園になってしまって、自分が

	<p>小さい頃は保健センターの庭で遊べたんですけど、その庭もなくなってしまって、四小の子たちもここまでは来れない子が多いので、本当に遊び場がない状態でここまで来ているわけで、それはもうずっとこのままでいいのかなというのを思っていました。その上、本町児童館はこのまま小さい状態ですので、今後、子ども家庭支援センター、保健センター、あの建物が数年後に中町のほうに引っ越ししてしまいます。そうすると、ますます幼児グループの子たちも遊び場がなくなるわけです。そうすると、今まで子ども家庭支援センターのゆりかご広場で利用していた1、2歳のお子さんを持つママたちは、今度、本町児童館のこの幼児グループのほうまで行かないと遊ぶ場所がなくなってしまうので、そういうことを考えると、今後どうしたらいいんだろうというのがとても疑問に思います。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。今、具体的に出していただきましたけど、子どもが安心して遊べる場の確保というところについて地域地域で課題があるんじゃないかということですね。ありがとうございました。</p> <p>今と関連しても関連しなくても、いかがでしょう。</p> <p>では、大久保委員、どうぞ。</p>
大久保委員	<p>大久保です。前回お話ししたときも、やはり自分の住んでいる場所の近くにあることが子どもにとって大切なことだとすごく感じております。やはり子どもにとって10分、15分、あるいは20分歩いて来る、また、違う学区だというのはかなりハードルが高いのです。少なくとも自分の学区など身近なところに、今ある児童館ほど設備が充実してなくてもいいのですが、居場所として何かがあるといいなどは常々感じております。</p> <p>居場所づくりの推進に関する指針ということで、いろいろなところにあるのが望ましいとなっており、それが必ずしも児童館であるところの中では出てはいないんですが、やはり子どもが安心してそこにいることを考えると、ただただあるというよりは、児童館なりが持っているノウハウみたいな形で子どもたちを見守ってくれるような、そういうものがあるといいと感じています。</p> <p>以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。子どもの活動する領域の中に、それぞれ居場所がきちんとあるということですね。ありがとうございます。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。木本委員、お願いします。</p>

木本委員	<p>木本です。私は東町に住んでいるので、東児童館さんにとってもお世話になっているんですけども、先ほどあった拡充期のところのサービス向上検証ということで、東児童館が委託となって、今も継続していると思うんです。その効果として、延長開館してくださっていたり、常設の親子広場というのはすごくよく分かるんですけども、その地域の保護者としては、やはり顔をずっと知ってくださる大人が児童館にいるのがすごく大事なことで、もし毎回毎回改編期のときに、次は違う方になったら、子どもたち、一から大人との、児童館職員さんとの関係をつくり直さなきゃいけなくなるんだなって、安心して行けていた場所が1回リセットされちゃうんだなというのを思って、毎回毎回不安な状況です。今年はどうなるんだろう、今回はどうなるんだろうというのを思いながら、現事業所にまた続けていただきたいという感じで思いながら過ごしているので、いい面もあると思うんですけども、子どもにとって本当にサービス向上がいいのか、常に日常として過ごせる場として、安心して顔を知っている大人がそこにいるくれるというのが子どもにとっては安心材料になるんじゃないかな。預ける保護者としても安心材料になるので、委託化はどうかかなというのは常日頃思っています。</p> <p>委託館でよかったことは、直営のほうでもやれないのかなという疑問というか、常設の親子広場は東のすごい特色ではあるんですけど、ほかの館だと、物理的な面もあるかもしれないんですけども、そういうのが直営で広がったらいいのになというのも思っています。</p> <p>一意見として述べさせていただきました。以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。それぞれの児童館での特徴を踏まえて御発言いただいているので、非常に具体的に考えることができるかなと思います。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>私、この資料を見たとき、さっき、打合せでもちょっと話したんですけど、子どもの数が、ここ直近の平成14年以降、15年以降ですかね、だけ見ても増えているという。小金井市は、この少子化の時代において子どもが増えていると。それによるもちろん様々な課題も出てきているわけですけども、学童の問題なんかも出てきているわけですけど、子どもが増えている。子どもの数と児童館の利用者数というか、実際に利用している子どもたちを考えると、子どもは延べ数になってくるので同じ子が何度も使うと思うんですけど、多くの</p>

	<p>子どもに児童館を使ってもらうにはどうしたらいいかという問題と、さっきおっしゃっていた、児童館だけが子どもの居場所ではないので、そのほかにも様々な、学校だったり学校外で展開する子どもの居場所をどう緩やかにつないでいくかというか、あるいは、そういう子どもたちが何か課題や問題に直面したときに、どういうふうにサポートするかというところの支援する側のネットワークというんでしょうか、そういうのもこの成熟期のさらに先というんでしょうか、ある程度の場と環境と人材が育成されている現状において、網の目を細かくしていくというんでしょうか、そういう辺りも今後の検討になってくるのかなと、これを見ていて、子どもの数が多かろうが少なかろうが大事なことだと思いますけれども、多いという現状において、基本的に全ての子どもたちにサポートが届くような、多様な手段で届くようなありようというんでしょうかね、それを今後検討していく。そこにおいて、児童館がどういう役割を果たせるかということは考えていかなきゃいけないなどは改めて、こうやって数で見ると思うなというふうに、全体的には思ったんですけれども。それは私の感想でしたね。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。高橋委員、どうぞ。</p>
高橋職務代理	<p>高橋ですけれども、先日のニュースなんかを見ていても、児童・生徒で不登校の子が19万6,000人ですかね、大変な数の子どもたちが学校に行けないでいると。今回のこういった指針なんかでも、居場所づくりの重要性がうたわれているわけですが、また片方では、今、会長が示されたような形で、人数の減少も見られると。コロナ期という非常に特殊事情の中のことではあるんですけれども、児童館が果たす受皿としての役割ってやはり重要性を増していると思うんですが、小金井において、コロナ期だから、あるいは児童館を頼りにして遊びに来る子どもたちが、場合によって、実態として顕著に表れているとか、いや、そういう傾向は見られないとか、何かそういったものが小金井の場合にあるのかどうなのかもちょっと気になるところで、もしその辺で把握されているようであれば、お話を伺いたいなと思います。</p>
倉持会長	<p>コロナというのが一つのきっかけというか、それで明らかになる子どもたちの問題点というのはあるのかもかもしれませんね。その辺の子どもたちの変化とか様子が、もし資料であれば頂きたいなということですね。</p>
高橋職務代理	<p>そうですね。それと、実際に毎日子どもたちと接している4館の職員の方がいらっしゃるわけで、おぼろげながらそういう傾向が見ら</p>

倉持会長	<p>れるなというようなことなのか、ふだん、あまり利用してないけれども、やっぱり学校に行けなくなった子たちが児童館に来るようになったとか、そういったものが実際見られるのであれば、小金井の場合、そんなに絶対数がないですから、それほど多くはないと思うんですけども、もし把握されているようであれば伺いたいなどは思いますけれども。</p> <p>ありがとうございました。後ほど、今すぐあれば今すぐ言っていたでもいいんですけども、別に今日じゃなくてもいいので、それぞれの施設、それぞれの職員さんでの読み取りというか、見取りというか、あれば、また次回に向けて御準備いただければと思います。ありがとうございます。</p>
森主査	<p>すみません。1つだけ説明を入れさせてください。これの分析というか、資料6のところですけども、児童館の1館ひと月当たりの平均利用者数というのがあります。これから何を読み取るかというのが、恐らく解説をしないと分からないのかなと思います。基本的に、当初の900人というのは、ここに書いてあるとおり、まだ市の児童館が運営に手探りなので、今のような事業もなく、幼児グループすらやっていなかった時代なので、あまり参考にはならないんですが、昭和50年代に入れば大体今と同じような運営になります。令和2年は、この人数はコロナ禍なので少ないというのは極端なんですけれども、基本的には2,000人前後の利用者数があります。ただ、これは同じ形態でずっとこの人数であったわけではなく、例えば、平成7年の1,861人なんですけれども、この年に初めて子育てひろば事業を行いました。児童館の利用というのは、基本的には児童福祉法の児童の定義に則り0歳からですが、それまでは実際は幼児グループの対象の2歳児からが利用の始まりでした。つまり幼児グループからが利用のスタートだったわけです。その後、覚えていらっしゃると思いますが、国の施策であるエンゼルプランにあった子育て支援事業は児童館での子育てひろば事業の取り組みとなり、それによって0歳児から児童館の利用者になりました。平成7年度のことです。</p> <p>ひろば事業をスタートさせてからしばらくは、常設では行っていなかったもので、人数的にはそれほど多くはなく、幼児グループ参加者の方が多かった時代が続きました。変わってきたのは東児童館が常設を委託したときから始めた平成18年以降で、それ以後未就学児童の利用数</p>

の中で0歳児や1歳児が増えていきました。この10年で見ると始めた事業もあれば、終えたり参加が減った事業もあるので、それほど利用者数に差はないと思います。

幼児グループだけで言いますと、先ほど、うちの鈴木から本町児童館のある曜日の参加が14組という報告がありましたが、私の記憶では、本町児童館の最盛期の幼児グループは50組以上の親子がいるグループが週に4つ以上ありました。にもかかわらず、全体的な数字で見れば、あまりそれが反映されていないともいえますが、それは幼児グループが減ったけれどひろば事業の参加が増えたということになります。幼児グループについては本町児童館に限らず、どの児童館も今よりも3倍以上の参加者がいました。多かった時期はどの児童館も重なり、最初貫井南児童館が減ったことで活動数を減らしましたが、どの児童館も保育園へのニーズが高まったことに比例するかのよう幼児グループが減り、ひろば事業を枠として増やすことが出来たというのがあります。

あと、中高生世代対象の夜間開館に関しても、貫井南児童館で始めたのが平成14年からですが、それによって、これまで少なかった中・高校生世代の利用者数は増えました。続いて委託した東児童館も平成18年度から夜間開館を同じ対象で始めましたが、週1回の夜間開館に結構の中・高校生が集まったので、特に委託当初はその世代の利用者数はとても多かったと記憶しています。人数はあくまで数字なので、見ていただきたいのは児童館は社会的な変化で利用者数が変わったり、社会的なニーズを受けて重点とする事業を増やしたり減らしたりしているということです。先ほど小学生の遊び場の話が出ましたが、小学生の遊び場が少なかった時代とそうでない時代とでは利用者数も違ったと思いますし、小学生の利用が幼児よりも多かったときもあれば逆の時代もあると思います。

倉持会長

ありがとうございました。今のお話にもあったように、今の時代状況と今の利用の在り方、多分両方見ていかなくちゃいけないと思うので、今日はあくまで2ページに収める都合上、概要としての平均利用者数ですけど、もう少しそれぞれの利用の年代とか利用の、館によつての違いもあると思いますし、年代によつての変化もあると思いますので、そういうのをもしかしたら少し見て、時代状況と合わせて見ていく必要があるのかもしれないですね。ありがとうございます。

鈴木委員

三浦委員、鈴木委員、いかがでしょうか。鈴木委員、お願いします。委員の鈴木です。今の森さんのお話を受けまして、やはり私、児童館で幼児グループ、今、3年生の長男が参加したときは、そのときでも、緑児童館の幼児グループで、火曜日で4グループあったんです。七、八組の親子で、最初5グループあったのが4グループになったぐらい。だから、今日見学してきた本町児童館の幼児グループのように、2倍、3倍までいかない、そのぐらいの規模で結構活発にやっていたというのはあるので、確かに幼児グループなんかの数は減っているという実感はあります。

先ほどの資料のお話の中で、保育園の定員が平成27年の2,000人程度から令和2年度では3,600人に増えているという数からも分かるように、保育園の数自体が数年前と比べて小金井市内でも3倍ぐらい増えているので、保育園に行っている御家庭さんが多くなる、どうしても乳幼児期に児童館への参加する機会が全体的には減ってくると思っています。それに関わってくると、やはり参加自体が減ってくると、そのままお母様方、お父様もそうかもしれないんですけど、児童館に足を運ぶことが全体的に少なくなってくる。そうすると、資料6の一番最後のボランティアとかの利用者との関わりの減少というところにも直結してくるものだと思うんですけども、昭和初期あたりの母親クラブさんですとか、地域ボランティアの活発な活動というのが今後なかなか、この頃のようにはなっていくとは考えにくいのかなという印象は受けているので、時代に沿った活動の在り方を探っていかなくはいけないのかなという印象は受けています。

ただ、今回の四館合同事業なんかでは、子ども会議がかなり活発で、参加者のお子さん自身がとても充実した活動ができていたところがあるので、その辺がもしかしたら可能性として考えられるのかなという印象も受けました。

以上です。

倉持会長

ありがとうございます。大人の環境も変化しているので、参加のありようとか、仕方とか、きっかけみたいなのは当時の仕組みとはちょっと変えていかないといけないというのは確かにあるかもしれないですね。ありがとうございます。

三浦委員、いかがでしょう。

三浦委員

僕も、幼児グループに実際20年ぐらい前に参加していたんですけど

倉持会長	<p>ど、そのときの電話帳をたまたま見つけて、それはたしか三、四十組ぐらいあったので、僕が4年前ぐらいにこれの手伝いに行ったことがあったんですけど、そのときにいたのが実際6組ぐらいだったので、めちゃくちゃ減っているんだと実感しました。その日はたまたま少なかったのかもしれないんですけど。どうして減っちゃったんだろうと思いますけど。やっぱり幼児グループのときから仲良かった子と実際幼稚園で仲良かったりもしましたし、ほぼ記憶がないんですけど、そういったこともあったので、なるべく人がいたらいいなと思いますけど、どうやっていくべきか分かりませんが。</p> <p>三浦さんの長期にわたる児童館利用者と、さらにそこからボランティアとしての経験を実感として、ぜひまた会議でいろいろ言っていたらヒントも見つかるのかなと思いますので、まさにこの辺の、後半のこの20年の部分を児童館で過ごされたということで。大体どうでしたか、今日のまとめはそのとおりだなと思いましたか。そこ違うよというところ、ありましたか。</p>
三浦委員 倉持会長	<p>いや、大体合っていました。いいと思います。</p> <p>大体合っていましたか。またぜひ、御経験からの御意見を踏まえて教えていただければと思います。ありがとうございました。</p>
山田委員	<p>何か追加でありますでしょうか。今日はあれこれ出した上で、次回以降にもう少しテーマを決めて議論していけたらと思うんですけども。</p> <p>山田委員。</p> <p>山田です。幼児グループに関してなんですけど、先ほど話しました子ども家庭支援センターのゆりかご広場も数年先には貫井北町五丁目からはなくなってしまうわけです。そうすると、そこの地域に住んでいるママたち、恐らく本町児童館が今度頼みの綱になってくると思うんですが、ゆりかご広場事業と児童館の幼児グループ事業の連携がもうちょっとできたらいいのではないかなと、話合いができたらいいいのではないかなと思いました。それは今すぐということではなくて、二、三年後で構わないと思うんですけど、そうしないと、貫井北町側が何も無いのが問題だと思っていますので、そこが解決できたらいいなと思いました。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。実際の活動の体験から御提案いただいて、また、連携はいろんな意味で、保護者とか親のほうからしてみれば、</p>

森主査	<p>どこがやっているかももちろん大事だろうけど、どこがサポートしてくれるか、子どものほうから見ても大事だと思います。</p> <p>どうぞ。</p> <p>緑児童館の森です。今のお話の中での連携についてなんですけれども、こちらから言い訳ではないんですが、今やっていることが、連携に当たるかどうか分からないんですが、まず、市の子育てひろば事業は、子ども家庭支援センターゆりかごのひろばが常設であります。次に各児童館のひろばがあります。児童館に関しては、今、毎日やっているのが東児童館と緑児童館だけで、本町児童館と貫井南児童館が3回なので、数の差はありますが。それ以外には児童館と併設していない所謂単独学童保育所で、曜日が今頭に浮かびませんが、週3回実施しています。但し学童保育所は小学生を預かる施設なので開設は午前中だけです。</p> <p>児童館、学童保育所は児童青少年課で、子ども家庭支援センターは子育て支援課で、それぞれ担当課が違いますが、同じ子ども家庭部同士なので、部として子ども家庭支援センターを中心に、市の子育て支援事業で連携していることになっています。よって、子ども家庭支援センターのひろば事業である「ゆりかご」、児童館、学童保育所は定期的に連絡会議を開き、情報交換を行い、利用者の情報や最近見られる利用者からの要望や問題点などを話し合い、互いにひろば事業を高め合うことを目的としています。また、年に1回研修会も実施しています。</p> <p>それから、ひろば事業と幼児グループの関係性については、一応御理解いただいているということですのでよろしいでしょうか。理想的な形としてはひろば事業からそのまま幼児グループに利用参加が移行して行くことですが、資料にもある通り、ひろば事業を利用していた0歳児が1歳児になるころに保育園に入園してしまうことも多く、中々幼児グループに参加が流れないのが現状です。これが幼児グループの参加が年々減っている結果ですが、全体の利用者数の幼児の数自体は大きく変化はないので、利用する年齢が変わってきているということになります。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございました。改めて、例えば、今みたいに幼児と親の支援について議論するときには、文字になった資料があったほうがいかなというふうに、口頭だけで聞くとそれぞれの経験、それぞれの</p>

前田係長	<p>知識でちょっとかみ合わないかもしれないので、小金井市における支援の全体像が分かるようなものはお示しいただくといいのかなと思います。</p> <p>では、一応議題としてはそろそろ議題（２）にと思えますけれども、（２）その他として何かございますでしょうか。事務局は何かありますか。</p> <p>事務局の前田です。冒頭でも御説明したとおり、今年度の次回の児童館運営審議会につきましては来年２月頃で予定をさせていただいて、そのときの議題は何かというと、大きなものだと、令和４年度の事業計画について御審議いただき、承認をいただくという予定になっております。また、今回みたいに開催の１か月前には通知をさせていただこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。その際は、コロナの状況を見ながらですが、本町児童館ではない館を見学を含められるようにとは考えておりますので、会場につきましては、その通知の中でお知らせさせていただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
倉持会長	<p>ありがとうございます。そのほか、委員の皆さんから何か言い忘れた、確認し忘れたなどございますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、今お話のあったように、次回は２月頃になるかということで、また御連絡が行くかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで閉会といたします。皆様、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">— 了 —</p>